

07年サケ. マス

年	数 量															
	漁獲(生産)		加工	輸入	輸出	東 京			消費支出		月末	日露	アキ	北海 本		
	サケ	マス	養ギン	塩蔵	生	冷	生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)	在庫	協定	サケ	道 州	
18	219	12	12.0	108.3	202.4	66.5	5.4	35.7	14.8	2,944	1,699	115.0	8.7	211.0	172.1	39
19	210	25	13.5		238.2	58.9	5.8	34.3	13.3	3,025	1,757	112.2	10.3	201.8	164	38
%	96	206	113	0	118	89	108	96	90	103	103	98	118	96	95	97

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	価 格									
	秋	北海	本	輸	輸	東 京		消費支出		
	サケ	道	州	入	出	生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)
18	347	347	348	526	267	863	614	753	3,979	2,215
19	355	356	352	595	227	848	600	732	4,038	2,185
%	102	103	101	113	85	98	98	97	101	99

漁 獲 量

19年の北洋サケマス漁業は、ロシア200海里枠が中型船5,775トン（前年3,450トン）、小型船4,500トン（前年5,220トン）で中型船かなり増加、小型船減少となった。入漁料は中型・小型とも292.5円/kgで前年並みであった。また、漁況はベニ、トキ、マスとも減少であった。またオホーツク建マスは倍増した。

日本200海里枠は3,175トンで引続き前年（カラフトマス主体3,340トン）を若干下回った。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道4,951万尾（前年4,997万尾）、本州1,237万尾（前年1,215万尾）、トン数では北海道16.4万トン（前年17.2万トン）、本州3.78万トン（前年3.88万トン）であった。

北海道では前年を引続き若干下回ったものの水準としては本年度も高く5年続きの豊漁で、本州では前年をやや上回った。

価格は、やや減少したものの対アジア輸出が引続き堅調だったこともあり、北海道、本州とも周年を通じて昨年並みを維持した。

魚体は、北海道3.31kg（前年3.44kg）、本州3.05kg（前年3.20kg）で、今年は北海道、本州とも小型化が顕著であった。

国内養殖銀ザケは、1.36万トン（前年1.2万トン）であった。

輸 出 入

19年のサケマス輸入量は、23.8万トンで前年（20.2万トン）を上回った。

本年は特に天然、養殖物ともに大きな増減が無かったが、冷凍フィレの増加分（前年度までは区分がなかった）が反映されたものである。

天然物の国別輸入量は（全てのサケマス類、フィレを除く）、米国2万トン（前年1.9万トン）、カナダ0.3万トン（前年0.6万トン）、ロシア2.9万トン（前年3万トン）でカナダが少なくなったが米国、ロシアはほぼ前年並みであった。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケは世界的に生産も伸びている事情は変わらないが、EU、米国、中国等の需要も伸びているため、秋サケ中心に日本からの輸出も多くなっており、中国を経由してEUといったルートも開発されている模様。本年の国別輸入量はチリ11.4万トンで前年並みであったが、ノルウェーはEU需要の伸

びもあり2.5万トンで、前年(2.4万トン)並みを引続き下回った。またニュージーランド(生・冷)、デンマーク(冷)、オーストラリア(生)等からの輸入は引続きみられているが、量的には少ない。

輸入価格は、595円で本年は世界的な旺盛なサケ需要の結果を受けて上昇著しく前年(526円)を上回った。

また、近年まとまった輸出がみられていたアキサケは本年も多かったが、買入価格の更なる上昇中国国内の在庫も多かったこともあってやや減少し、5.9万トンと前年(6.6万トン)をやや下回った。

輸出先は、依然中国4.9万トン(前年約5.8万トン)で本年は83%シェアを落とした。続いてタイ5,439トン(前年:5,227トン)、ベトナム2,473トン(前年:16トン)、台湾744トン(前年:671トン)、韓国673トン(前年:749トン)であった。

また輸出価格は、特に需要が依然強いものの、前年の予想通り上述のこともありさすがに上昇せず前年(267円/kg)を下回る227円/kgであった。

総供給量

本年は沖獲、秋サケの減少があったものの、輸入量、国内銀サケ養殖、建マスの増加を反映し、期首在庫が少なかったものの、総供給量は、前年をやや上回る54万トンとなった。

	18年	19年	対比(%)
総供給量	510,400	543,550	106
沖獲漁獲量	15,600	8,750	56
秋サケ漁獲量	211,000	201,800	96
建マス漁獲量	6,700	15,000	224
ギンサケ漁獲量	12,000	13,600	113
輸入量	202,400	238,200	118
期首在庫量	129,200	125,100	97
輸出	66,500	58,900	89

消費地入荷量と価格

サケの東京消費地入荷量は、生5.8千トン(前年5.4千トン)、冷3.4万トン(前年3.6万トン)、塩1.3万トン(前年1.5万トン)であった。

本年の入荷の特徴は、生鮮がやや増加したものの、冷凍原料及び製品はやや減少した。

平成年代に入って順調に伸び定着してきた生秋サケは、切り身、生フィレーでの旬の販売がすっかり全国的に浸透し、本年も前年をやや下回った。しかし家計支出でみると生、塩とも数量的には再度やや増加し、金額ベースでは製品単価の安値もありほぼ前年並みであった。

価格は、生848円(前年863円)、冷600円(前年614円)、塩732円(前年753円)となった。

本年は産地では秋サケ魚価の上昇があったが、グローバル化しているサケ類の状況下での輸入養殖系サケの安定した価格の推移もあって、消費地市場でも生鮮、冷凍、塩蔵とも、何れも昨年を若干下回った。